

レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物（全9冊）

セット

A4判・セット定価（本体41,700円＋税）送料サービス

1 哺乳類

部

A4判・定価（本体2,800円＋税）送料350円 コード 5108096-00-000 レッド2014①哺乳類 ISBN978-4-324-09895-0

2 鳥類

部

A4判・定価（本体3,400円＋税）送料350円 コード 5108097-00-000 レッド2014②鳥類 ISBN978-4-324-09896-7

3 爬虫類・両生類

部

A4判・定価（本体3,500円＋税）送料350円 コード 5108098-00-000 レッド2014③爬虫両生類 ISBN978-4-324-09897-4

4 汽水・淡水魚類（平成27年1月発刊予定）

部

A4判・定価（本体6,400円＋税）送料460円 コード 5108099-00-000 レッド2014④魚類 ISBN978-4-324-09898-1

5 昆虫類（平成27年1月発刊予定）

部

A4判・定価（本体7,200円＋税）送料460円 コード 5108100-00-000 レッド2014⑤昆虫類 ISBN978-4-324-09899-8

6 貝類

部

A4判・定価（本体5,100円＋税）送料460円 コード 5108101-00-000 レッド2014⑥貝類 ISBN978-4-324-09900-1

7 その他無脊椎動物（クモ形類・甲殻類等）

部

A4判・定価（本体2,600円＋税）送料300円 コード 5108102-00-000 レッド2014⑦無脊椎 ISBN978-4-324-09901-8

8 植物Ⅰ（維管束植物）（平成27年3月発刊予定）

部

A4判・定価（本体5,100円＋税）送料610円 コード 5108103-00-000 レッド2014⑧植物Ⅰ ISBN978-4-324-09902-5

9 植物Ⅱ（蘚苔類、藻類、地衣類、菌類）（平成27年1月発刊予定）

部

A4判・定価（本体5,600円＋税）送料610円 コード 5108104-00-000 レッド2014⑨植物Ⅱ ISBN978-4-324-09903-2

◎上記のとおり申し込みます。

平成 年 月 日

御住所（〒 — ）

〔社費・公費・私費〕

フリガナ
御氏名

TEL

e-mail

@

※送料は平成26年10月時点の料金です。

※発刊予定につきましては、変更になる場合があります。

※お客様の個人情報は、契約の履行、弊社からの商品・サービスのご案内以外の目的には使用いたしません。

●取扱者

本社 東京都中央区銀座7-4-12 104-0061

本部 東京都江東区新木場1-18-11 136-8575

TEL：0120-953-431 / FAX：0120-953-495

URL：http://gyosei.jp

10年ぶりの待望の改訂版、発刊!

レッドデータ
ブック 2014

日本の絶滅のおそれのある野生生物

環境省／編

●レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物種のリスト）に記載されている種について、各種の形態、分布域、生息環境等を環境省がとりまとめ、解説した唯一のデータブック！

●自然環境に携わる全ての人の必携書！

【レッドリストとは】

絶滅危惧種のランク区分と名称等を掲載した一覧。

【レッドデータブックとは】

レッドリストに掲載されている種の形態、分布域、生息環境、生活史、生息地の現況、個体数の現況、存続を脅かす要因、保護対策の現状、特記事項等をそれぞれまとめたもの。

申
込
書

- 平成24年8月に公表されたレッドリストに基づき、レッドデータブック2014を作成。
- 開発事業の際に、環境影響評価を公表する環境コンサルタントにはもちろん、自治体の環境保全課、研究者、博物館などにも必要な一冊。

【環境影響評価とは】

環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業(主に道路やダム、鉄道、発電所の開発事業)について、その事業の実施に当たり、あらかじめその事業の環境への影響を調査、予測、評価し、その結果に基づき、その事業について適正な環境配慮を行うことをいいます。

EX (絶滅)

食肉目 イヌ科

エゾオオカミ

Canis lupus hattai Kishida, 1931
英名: Ezo wolf

オオカミ (*Canis lupus*) の亜種で北海道に生息していたが、駆除目的の過剰捕獲により、1900年頃を境に激減し、絶滅した。

The Ezo wolf (*Canis lupus hattai*) was distributed in Hokkaido, but was extirpated about 1900 as a result of a predator control campaign to protect domestic animals.

カテゴリ判定基準: ③

旧レッドリストカテゴリ		
1991	1998	2007
Ex	EX	EX

基礎情報

■**形態** ニホンオオカミ (*C. l. hodophilax*) に比較して大型で、頭胴長はオス129cm、メス120cm、尾長オス40cm、メス27cm、耳長オス11.5cm、メス10.5cm。頭骨全長は232.4~275.8mm。オオカミの亜種とされるが、亜種の特徴や分布域が不明確であるなど、分類学的検討は十分でない。

■**分布域** 種としてはユーラシアと北アメリカに広く分布する。本亜種は北海道に生息していた。また、サハリン (20世紀初頭以来生息情報がない) と千島列島 (確実な情報がない) にも分布していたとされる。

■**生息環境** 本種は森林から草原まで幅広い環境に適応して生息するが、本亜種の生息環境に関しては情報がない。

■**生活史** 群れで生活し、おもにエゾシカ (*Cervus nippon yesoensis*) を捕食していたと思われる。高次捕食者であるため、生息密度も低く、個体群維持には広大な生息域が必要であったと考えられる。

絶滅に至った経緯とその要因

放牧馬に対する食害を防ぐために、北海道開拓使 (道庁の前身) は、1876 (明治10) 年から賞金を出してオオカミの駆除を奨励した。開拓以前は北海道の全域に生息していたと思われるが、駆除が進められた時代には分布が偏ってきた。たとえば1880 (明治14) 年には牧場の多い

日高、根室地方で多数捕獲されたが、1885 (明治19) 年になると人口の多い石狩、十勝、渡島地方でおもに捕獲されている。これは、主要な餌であるシカが乱獲などによって減ったことから家畜を襲うようになり、さらに人家周辺で小家畜、残飯などを餌とするようになったためと考えられている。駆除対策の結果、オオカミの個体数は急減し、被害がなくなったため、1887 (明治21) 年に奨励策は廃止された。1876年からのわずか12年間で本制度により1,539頭が捕獲された。これとは別に官庁による駆除も行われていることから、この期間の全捕獲数は2,000~3,000頭と推定され、1888 (明治22年) 以降はほぼ絶滅状態であったと思われる。その後、1896年 (明治29年) に函館の毛皮商がオオカミの毛皮数枚を扱ったという記録がある。

特記事項

現存する本亜種の標本は、北海道大学農学部附属博物館の本剥製雌雄各2頭 (模式標本を含む) および頭骨雌雄各2点ほか性不明1点、アイヌ民俗資料館 (静内町) にオスの頭骨1点、大英自然史博物館にオスの頭骨1点が知られるだけである。

【参考文献】
今泉吉典, 1960. 原色日本哺乳類図鑑. 保育社, 大阪. 196pp.
犬飼哲夫, 1933. 北海道産狼とその滅亡経路. 動物及植物, 1(8): 11-18.
犬飼哲夫, 1975. 北方動物誌. 北苑社, 札幌. 152pp.
Kishida, K., 1931. Notes on the Yesso wolf. Lansania, 3: 72-75.
小原巖, 1984. 絶滅した日本のオオカミ. 動物と自然, 14(11): 2-6.

執筆者: 石井信夫 (東京女子大学)

CR+EN (絶滅危惧 I 類)

節足動物門 剣尾綱 (カブトガニ綱) カブトガニ目 カブトガニ科

カテゴリ判定基準: ①, ②

カブトガニ

Tachypleus tridentatus (Leach, 1819)

“生きている化石”と呼ばれるように非常に貴重な生物である。しかしながら、20世紀前半までは、日本に数10万のカブトガニがいたといわれるが、沿岸開発による干潟の破壊などにより、急速に減少、今では成体で1万以下数千つがいの生存しか自信を持って言えない状態になっている。絶滅の危機も現実のものになってきている。

Horseshoe crabs are very valuable species. They are called “living fossils”, and look like trilobites. Only Japanese horseshoe crabs are distributed in the Palearctic region. They are distributed in the north region of Kyushu and the Seto Island Sea in Japan. The number of adults had been more than a hundred thousand in the early 20th century, but now there are less than ten thousand. The main cause is the diminution of mud flats and the weakness of the ecosystems.

基礎情報

■**形態** 体長約40~60cmで、古生代に栄え滅んだ近縁の三葉虫によく似た形をしており、生きている化石と呼ばれる。

■**分布域** カブトガニ (*Tachypleus tridentatus*) は東南アジアから日本にかけて生息するが、他は東洋区に生息し、旧北区の日本は飛び離れている。国内でも、九州北部と瀬戸内海に限られている。

■**生息環境** 生活史に記載。

■**生活史** 海岸 (潮間帯) の砂浜に産み落とされた卵は、砂の中で2ヶ月ほどでかえり、幼生は泥 (シルト) の干潟にすむ。餌としてはプランクトンや大きくなるとゴカイなどを食べる。死がいても食べる。成長する10年以上の間、10回以上の脱皮を繰り返し、その干潟で過ごす。そして、亜成体になると沖の海底に移る。成体になると、もう脱皮はせず、夏の大潮の満潮時に海岸に、つがいと産卵に来る。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 分布域は東より狭められ、百をこえる明確な繁殖地も不連続の点状になっており、四国では全滅状態、本州では山口県の沿岸のみ、九州でも曾根干潟、伊万里湾、杵築湾、九十九島などに限られてきている。

■**生息地の現況** 埋め立てや護岸工事で、とくに幼生のすむ干潟が激減している。汚染も広がっている。

存続を脅かす要因

一番の要因は、生活史のほとんどを過ごす泥の干潟の消失と言える。現在、日本の繁殖地のトップ2 (他はかなり少ない) である曾根干潟の前の北九州空港や伊万里湾を横断する大橋の建設も、生存には脅威となっている。汚染も見られる。

保護対策の現状

笠岡市、西条市、伊万里市では、それぞれ国、県、市の繁殖地の天然記念物指定がある。日本カブトガニを守る会が中心になって保護活動を行っている。

特記事項

とくになし。

【参考文献】
日本カブトガニを守る会, 毎年. かぶとがに (会報).
関口晃一 (編), 1993. 日本カブトガニの現状. 日本カブトガニを守る会, 笠岡. 229pp.
関口晃一 (編), 1999. カブトガニの生物学. 制作同人社, 東京. 356pp.
伊藤富夫 (編), 2009. 歴史の中のカブトガニ. サイエンスハウス, 東京. 186pp.
伊藤富夫 (編), 制作中. 21世紀, 日本のカブトガニは今. サイエンスハウス, 東京.
執筆者: 伊藤富夫 (静岡大学名誉教授)